

平成29年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校読書活動推進					所管	教育委員会 指導課	
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	—	計画事業名	(行政計画外事業)			事業の開始・終了年度	
	長期総合計画体系	[基本目標] [小 柱] [施 策]							
	根拠法令等	その他		[法令等名]	要綱等なし			[終了予定]	- 年度
	事業対象	区立全中学校							
	事業目的	学校図書館の読書環境を整備し、利用に関する指導を行ったり資料展示を工夫したり、読書会を開催することで、生徒の読書意欲を高め、読書活動を推進する。							
	事業内容	授業や学習で活用できるように、書棚整理や分類表示を統一するなど、学校図書館の環境整備を行う。また本の紹介や資料展示等を行い、生徒の読書に対する興味、関心を深めさせることで読書意欲を高める。							
	委託の有無	全部委託		委託内容	学校図書館運営業務委託				
	補助金の有無	なし							
事務事業の実績	種 別	指標の名称		(単位)	目標値 (31年度)	26年度	27年度	28年度	
	活動指標	実施校数		(校)	7	7	7	7	
	成果指標	貸出冊数		(冊)	10,000	7,219	8,999	9,451	
	決算額 (単位：千円)					6,546	6,550	6,550	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)				170	160	178	
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)				6,547	6,550	6,550	
		その他のコスト (扶助費・補助費など)				0	0	0	
		総経費				6,717	6,710	6,728	
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)				0	0	0	
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0	
一般財源 (区負担額)				6,717	6,710	6,728			
前回評価から改善した事項	なし								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	生徒の読書離れを防ぎ、生涯を通じての読書習慣を身に付けさせるためにも、司書専門員を派遣しレファレンスの充実や、図書室の整備は必要不可欠である。						
	効率性	3	プロポーザルの形成で継続して同じ業者に委託している。年間を通じた学校の状況を分析し、次年度に活かすことで効率的に事業を実施しているといえる。						
	手段の適切性	3	委託事業者において、派遣司書を対象にした研修会を実施している。図書館司書の資格を有する各校に配置された司書が一堂に集い情報交換を行うことで区内全体の状況も把握している。						
	目的達成度	4	貸出本数は増加しており読書意欲を高められている。						
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)						評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
生徒の読書離れに歯止めをかけるため、読書支援や学習支援をおこない、生徒に読書に対する興味・関心を深めさせることで、読書活動の活性化につながる本事業の必要性は高い。							維持		